

Ⅷ. 緩和ケアに関する学会などについての情報

3. 日本がん看護学会，日本小児がん看護学会， 日本看護系大学協議会，日本看護協会

内布 敦子^{*1} 中野 宏恵^{*2}

(^{*1} 兵庫県立大学 看護学部 ^{*2} 兵庫県立大学 看護学研究科がん看護学専攻)

はじめに

ここでは、緩和ケアに関連した看護系の学術団体や団体の動きについて報告する。学術団体に関しては、日本看護系学会協議会の会員校の中から緩和ケアに関係する学術団体として日本がん看護学会と日本小児がん看護学会について、その活動を報告する。学術団体以外の団体では日本看護協会、日本看護系大学協議会の2つを取り上げて報告する。このほかにも、緩和ケアに関する看護師教育を担っている団体は相当数あると思われるが、今回の報告では割愛する。

現在、学術会議に登録されている看護系の学会は38学会である。その中で緩和ケアに関連する学会は日本がん看護学会、日本小児がん看護学会が主であると思われるが、緩和ケアの定義の変遷によって対象となる患者の範囲も拡大しているため、高齢者の症状緩和、終末期ケア、難病患者、在宅患者の症状緩和などは緩和ケアの範囲に含まれる。そのような意味では、日本老年看護学会、日本難病看護学会、日本在宅ケア学会なども緩和ケアに関連した学術団体であり、緩和ケアに関連した演題、論文が発表されている。

日本がん看護学会

日本がん看護学会は、がん看護に関する研究、教育、および実践の発展と向上に努めることを目的とし、対がん10カ年総合戦略がスタートした3年目である1987年に発足した。1996年には、日本学術会議の登録学術研究団体として認められ、現在、会員数は正会員4,442名、準会員43名、

賛助会員1名(2011年9月21日現在)である。おもな事業には、定期学術集会の開催、看護専門職に対する教育活動(研究会・講習会・研修会)、一般市民に対する教育活動(啓発、相談)、学会誌発行、国際活動がある。学術集会は総会で承認された会員による持ち回り開催となっており、全国各地で開催されている。

各学術集会のメインテーマ、基調講演では、常に現状から将来を見据えたがん看護の課題が提示され、がん看護の実践・教育・研究の推進が行われている。学術集会では、精神的援助、外来看護を含む化学療法看護、症状緩和ケアなどに関する演題が多く発表され、緩和ケアに関連する演題は大きな割合を占めている。ちなみに第25回学術集会では、全体演題数500の中で、緩和関連として緩和ケア45、サポータティブケア52、家族ケア35、エンドオブライフケア22、メンタル・スピリチュアルケア11、地域・在宅看護20であり、その他は診断治療に伴う看護に関するものであった(表1)。

学会には、特別関心活動グループ(Special Interest Group; SIG)委員会がある。特定のテーマに関心を持つ会員が集まり、情報交換などを図って会員相互に専門性を高め、より専門に特化した自己研鑽の場を共有しており、13のグループが活動している。緩和ケアはどのグループにも関与しているが特に関連するのは、がん性疼痛看護、ホスピスケア、乳がん看護、スキンケア、リンパ浮腫ケア、外来がん看護、在宅がん看護の7つのグループである。

学会誌には年間16～18題の論文が掲載されている。学会誌への投稿論文には、化学療法看護、

表 1 日本がん看護学会学術集会演題カテゴリごとの演題数

	第 24 回 (2010)	第 25 回 (2011)
がんリハビリテーション看護	0	13
小児のがん	2	2
高齢者のがん	6	6
遺伝看護	0	2
チームアプローチ	10	23
在宅・地域看護	13	20
予防とスクリーニングに関する看護倫理・インフォームドコンセント・臨床試験	14	22
緩和ケア	39	45
外来看護	45	44
診断・治療に伴う看護	63	102
看護師の教育	45	51
サポータティブケア	25	52
家族ケア	19	35
エンドオブライフケア	8	22
メンタルケア・スピリチュアルケア	13	11
患者教育	18	15
その他	46	35
合計	366	500

在宅を含む終末期ケア、家族ケア、患者の体験と看護支援、意思決定、リンパ浮腫や疼痛などの症状緩和ケアに関するテーマが発表されており、緩和ケアに関する論文の比率は極めて高い。

日本小児がん看護学会

日本小児がん看護学会は、小児がんの子どもと家族を支援する看護職・関連職種および支援に携わる者に対し、より高度な知識・技術を得るための研鑽の機会を設けることで、看護実践と教育・研究の向上・発展に資すること、加えて広く市民に対し小児がんの子どもと家族への理解を深め、子どもの健康維持・増進に関心を深めるための活動を行い、これらをもって医療福祉の増進に寄与することを目的としている。

2003年2月に「日本小児がん看護研究会」として発足し、活動を一層充実させて会員に研鑽の機会を提供し、かつ一般の人々が広く小児がんの子どもと家族に対する理解を深め、子どもの健康維持・増進に関心を深めるための事業を行って

くために法人化を目指し、2008年11月に役員会および理事会での合意を得て「日本小児がん看護学会」と名称が変更された。現在、会員数は648名（2011年11月24日現在）である。

おもな事業として、学会誌の発行、学会・研修会などの開催、機関誌の発行、小児がん看護の実践・教育・研究に関する情報交換、各地の親の会との交流などの事業を行っている。学会誌が現在6号まで発刊されており、年間5～13題の論文が掲載されている。小児の症状緩和をはじめとして終末期や意思決定における子どもと家族の心理的状況や援助に関するテーマが発表されており、緩和ケア領域の発表は非常に多い。

日本看護系大学協議会

日本看護系大学協議会では、専門看護師教育課程の認証を行っている。すでに教育プログラムが動いており、修士学生の在籍する課程が申請することができ、認証の有効期間は10年である。専門看護師教育コア科目として8単位、専攻領域共通科目、専攻領域専門科目（実習6単位含む）の2つの領域の科目を合わせて18単位の合計26単位が最低修了単位とされている。

現在、11の看護専門領域で専門看護師教育課程の認定が行われているが、中でも緩和ケアに関連の深い専門看護師教育課程（括弧内は2011年4月現在認定されている教育課程数）は、がん看護専門看護師（44課程）、小児看護専門看護師（20課程）、精神看護専門看護師（19課程）、在宅看護専門看護師（7課程）などの教育課程である。これらの教育課程の認定は、そのまま日本看護協会と共有され、日本看護協会が行う専門看護師の個人認定の際に認定された教育機関を修了していれば必要単位は満たしているとみなされる仕組みになっている。

専門看護師は臨床現場で看護の機能を拡大し、医学的な判断を含む治療管理に関して実績を上げるようになった。そこで日本看護系大学協議会では、諸外国ですでに法制化されている高度実践看護師教育に乗り出す方針が打ち出された。世界標準をにらみながら最低単位を38単位の教育課程

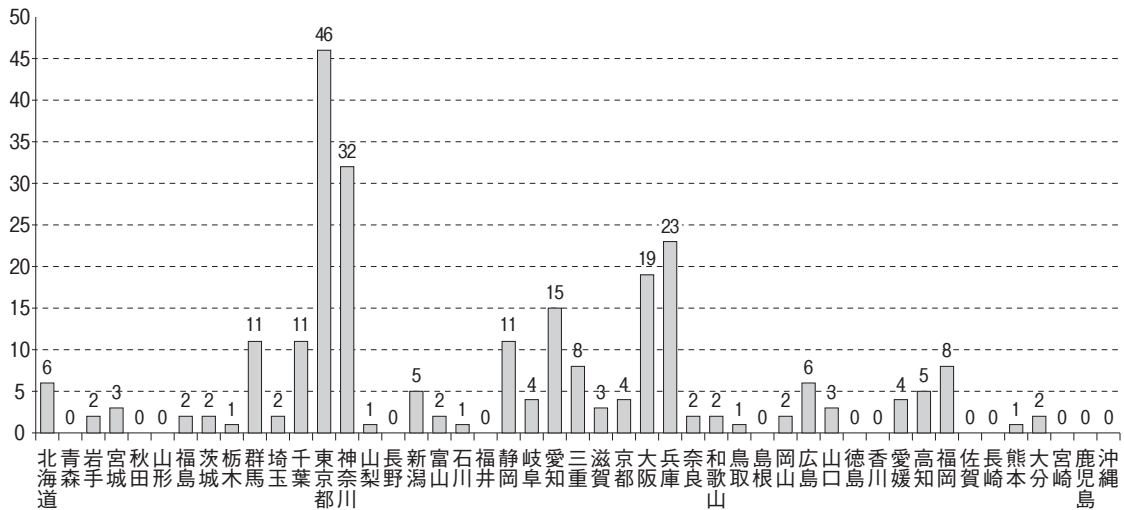


図1 がん看護専門看護師登録者数（2011年12月1日現在）
（文献6）を参考に作成

の審査基準が発表され、2012年度から38単位の専門看護師教育課程の認証が始まることになっている。

日本看護協会

緩和ケアに関連して専門看護師、認定看護師の認定を行い、一般看護師を対象とした緩和ケアに関する教育を行っている機関として日本看護協会があげられる。

① 専門看護師

専門看護師（Certified Nurse Specialist）は、日本看護協会の専門看護師認定審査に合格し、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族および集団に対して、水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識および技術を深めた者をいう。中でも緩和ケアに関与するのはがん看護専門看護師が中心となるが、それ以外でも老人看護専門看護師は高齢者の終末期の問題を扱い、精神看護専門看護師はサイコオンコロジーの知識を持ってリエゾン看護師としてメンタル面のケアに精通している。そのほかにも小児がんに関しては小児看護専門看護師の中に小児がんをサブスペシャリティにしている者が小児がん患者の緩和ケアに携わっている。

現在、がん看護専門看護師は全国で329名（2011年12月13日現在）であり、すべての領域を合計した専門看護師全体（798名）の約40%にあたり、最も多い。これは、2007年から開始された文科省のがんプロフェッショナル養成プランの影響が大きい。複数の医系の大学がグループとなってがん医療に携わる専門職の養成を行うが、グループ内に少なくとも1つのがん看護専門看護師の教育課程をもつことが申請の要件になっていたために、多くの大学ががん看護専門看護師教育課程を申請した。結果として修了生が多く輩出され、個人認定申請も多くなったものと思われる。

専門看護師の認定数を図1に示した。専門看護師の分布には地域格差があり、均てん化されているとは言い難い。

② 認定看護師

日本看護協会が認証する認定看護師教育機関で教育プログラムを修了し、認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる者をいう。認定の領域は現在18に及んでいるが、がん看護や緩和ケアに深く関連する領域は、がん性疼痛看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、がん化学療法認定看護師、乳がん看護認定看護師、がん放射線療法認定看護師の4領域であ

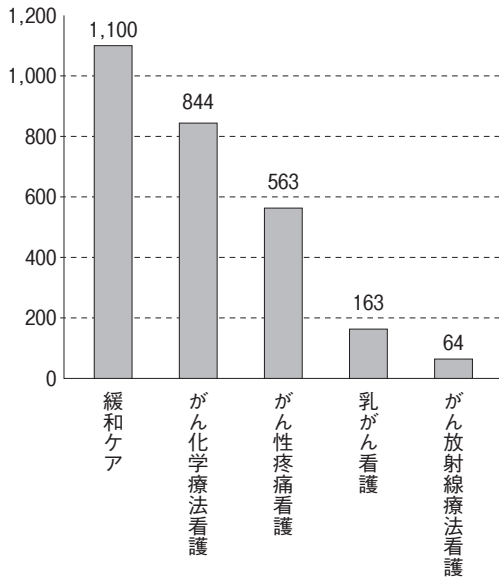


図2 認定看護師登録者数 (2011年12月1日現在)
(文献6)を参考に作成

る。そのほかにも皮膚・排泄ケア認定看護師，訪問看護認定看護師などが緩和ケアに関与している。

これらの認定看護師教育課程は原則6ヵ月で，教育課程の認証と個人の専門性の認定は日本看護協会が行っている。教育機関は看護系大学に付設される場合もあるが，日本看護協会もしくは各県の看護協会が独自に設置している場合が多い。上記4つの領域の認定看護師登録数は図2の通りである。

おわりに

緩和ケアの領域は，医学的治療の範囲を越えたケアが大きなウエイトを占める。看護はその大き

な部分を担っており，24時間体制で身体面でも心理面でも起伏の激しい患者の状態をマネジメントする立場にいるがゆえに，従来から緩和ケアへの関心は非常に高い。なんといっても看護職は，圧倒的に多い時間，患者の最も近い場所にいる専門職である。がん治療法の進展に伴い，診断，治療に伴う看護に比重がおかれるようになってもお，看護師たちの緩和ケアへの関心の高さは変わらない。

今後は在宅療養への移行がますます進むものと思われる，より広く，より深く緩和ケアの専門性を高める教育や研究が進められていくものと思われる。

参考文献

- 1) 季羽倭文子，他委員11名：日本がん看護学会における過去10年間のがん看護研究の動向—日本がん看護学会教育・研究活動委員会報告. 日本がん看護学会誌 12 (1)：41-49, 1998
- 2) 小島操子：日本がん看護学会10年の歩みと今後の課題. 日本がん看護学会誌 11 (1)：1-8, 1997
- 3) 小島操子：日本がん看護学会20年の歩みとがん看護の進展. 日本がん看護学会誌 20 (2) 5-11, 2006
- 4) 真壁玲子：がん看護学領域における研究の動向と課題—過去5年間 (1998年～2002年) に看護系学会誌2誌に掲載された研究論文. 日本がん看護学会誌 17 (2)：13-19, 2003
- 5) 吉田久美子，石田順子，瀬山留加，神田清子：1998年から2002年に発表されたがん化学療法に関する看護研究の動向と課題. 日本がん看護学会誌 19 (2)：95-104, 2005
- 6) 日本看護協会 [http://www.nurse.or.jp/]
- 7) 日本看護系大学協議会 [http://www.janpu.or.jp/]
- 8) 日本がん看護学会 [http://jscn.umin.jp/index.html]
- 9) 日本小児がん看護学会 [http://www.jspon.com/]